第5章 目標達成に向けた方針・施策

1 施策体系

第４章で掲げた３つの目標を達成するため、７つの方針と15の施策を定めています。

３つの目標		７つの方針		15の施策	
目標1	スポーツの力で「市民」がかがやく	1	ライフステージ※2や体力に応じたスポーツ活動の推進	1	子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン※13のスポーツ参加を目指します
				2	スポーツに親しむための場所や機会を充実させます
				3	ウインタースポーツを振興します
		2	スポーツを通じた健康増進	4	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります
				5	冬季における運動習慣を推進します
		3	様々な形・場でのスポーツ参加を促進	6	地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます
				7	スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します
				8	トップスポーツやアスリートと連携を図ります
目標2	スポーツの力で「さっぽろ」をかえる	4	スポーツを通じた共生社会※3の実現	9	障がい者スポーツを振興します
				10	スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します
		5	スポーツを通じた経済・地域活性化	11	札幌の特色をいかしたスポーツツーリズム※8の推進、交流人口※11の拡大に努めます
				12	札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します
目標3	スポーツの力で「世界」へつながる	6	「さっぽろ」の魅力を世界に発信	13	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します
		7	世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展	14	オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します
				15	札幌ブランド、シビックプライド※26を醸成します

※2 【ライフステージ】…人間の一生において節目となる出来事（出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など）によって区分される生活環境の段階
※3 【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である
※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてＭＩＣＥ推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである
※11 【交流人口…】観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口（その地域に住んでいる人口、居住人口）に対する概念
※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと
※26 【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

2 各目標の方針・施策

目標1　スポーツの力で「市民」がかがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

方針1　ライフステージ※2や体力に応じたスポーツ活動の推進

スポーツはそれぞれの適性や関心に応じて行うことができ、一部の人のものではなく市民誰もがその価値を享受することができるものです。

スポーツを「する」ことで誰もが楽しさや喜びを得られ、さらに、継続してスポーツを「する」ことで、勇気、自尊心、友情などの価値を実感するとともに、自らも成長し、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現していくことができます。

ライフステージ※2の中でも、幼少期の運動習慣は、その後の運動能力の向上などに大きく影響すると言われています。

大人になってからも、就職や結婚、出産等の人生の節目や、体力の低下、ケガなどによって、スポーツから離れてしまう人もいます。特に、20歳代から40歳代はスポーツ実施率が低い状況となっており、平成30年7月に開催した市民ワークショップにおいては、市民から「スポーツに対する考え方を転換し、通勤や仕事などの合間にも運動を取り入れてみてはどうか。」などといった提案もありました。

このような現状を踏まえ、幼少期から高齢期まで、市民誰もがライフステージ※2や体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。

施策① 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン※13のスポーツ参加を目指します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

将来を担う子どもがスポーツを経験することは、子ども自身の健康な身体と豊かな心を育むとともに、「さっぽろ」の未来を変える力になります。

学校や地域等の身近な場所で、子どもがスポーツを楽しめる事業を実施したり、地域に潜在しているスポーツ指導者を掘り起こし、中学校・高等学校のスキー授業へ派遣したりするなど、学校と地域が一体となって、子どもの頃からスポーツを体験できる機会を増やします。

具体的な取組

○子どものスポーツ参加のきっかけづくり レベルアップ

ウインタースポーツ塾の開催など、子どもを対象とした事業を展開し、子どもの頃から様々な運動に取り組むことができるきっかけをつくります。

※2　【ライフステージ】…人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階
※13　【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

○地域スポーツ指導者の中学校への派遣 レベルアップ

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

○スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討 新　規

子どもたちがスポーツを始めるきっかけとなるよう、様々な種目のオリンピアンやパラリンピアンを始めとした元トップアスリートのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

○子どもの体力向上推進事業 継　続

児童や生徒の体力･運動能力調査の実施等により、札幌の子どもたちの体力について分析をするとともに、運動習慣の確立と体力向上に向けた方策を検討します。

○児童会館 中学生･高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施 継　続

市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中学生･高校生の放課後の活動場所を確保しスポーツ等を通じた健全育成と、異年齢、異世代の交流の場を作ります。

（2）ビジネスパーソン※13や子育て世代 に対するスポーツ機運の醸成

理由は様々ですが、現在運動をしていない人が、必ずしも運動をしたくない人とは限りません。

就職や結婚、出産･子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味が薄い人を対象として、スポーツ活動を促進する取組を展開し、スポーツ実施率の向上を図ります。

具体的な取組

○スポーツに対する意識の改善 レベルアップ

日常生活において気軽に取り組めることもスポーツであるという認識の普及を目指し、例えば、エレベーターやエスカレーターでの移動を階段移動に変えるなど意識の改善を図ります。

○子育て世代のスポーツ参加に向けた取組 レベルアップ

スポーツ施設において、女性や子育て世代などのニーズや意欲にあったスポーツ機会（親子向け教室、託児付き教室等）を提供します。

○ウオーキング推進キャンペーンの実施 レベルアップ

通勤時間や休憩時間などを活用したスポーツの習慣づくりを推進し、スポーツ参画人口の拡大を図ります。

○スポーツ活動を促進するインセンティブの検討 新　規

スポーツを行う習慣のないビジネスパーソン※13などを対象に、スポーツ活動の促進とその継続を図るため、インセンティブが働く手法を検討します。

歩きやすい街（ウォーカブルシティ）を目指して

歩くことは、日頃忙しくて時間がとれない方や運動が苦手な方にとっても、気軽に行うことができるスポーツです。札幌市が実施した調査では、「ウオーキング・散歩」は種目別スポーツ実施率が最も高く、「今後行いたいスポーツ」でも、すべての年代でトップとなっています。 ▶▶関連P10・P11

これらを踏まえ、札幌市では、スポーツ参画人口の拡大、そして、スポーツを通じた市民の健康増進を進めていくために、歩きやすい街（ウォーカブルシティ）、そして、歩きたくなる街を目指します。

今後に向けては、ウオーキングの価値や魅力の発信に一層力を入れていくとともに、冬季でもウオーキングを行える環境づくりや、魅力ある歩くスキーコースの設置などについて検討していきます。また、ラグビーワールドカップ2019™など大規模スポーツイベントの開催時においても、そのイベントの持つ話題性や影響力などを活用したウオーキングムーブメントの醸成手法について検討していきます。

関連施策

●施策①　子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します ▶▶P41
●施策④　スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります ▶▶P48
●施策⑤　冬季における運動習慣を推進します ▶▶P49
●施策⑬　国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します ▶▶P63

FUN＋WALK PROJECT（スポーツ庁）

普段の生活から気軽に取り入れることのできる「歩く」に着目し、「歩く」に「楽しい」を組み合わせることで、自然と「歩く」習慣が身につくようなプロジェクト。ビジネスパーソンを中心に2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた国民全体の取組として、本格的なスポーツをする人のみならず、日々の暮らしの中で気軽に体を動かす人も含めて、スポーツ参画人口の拡大を進めています。

なお、スニーカー通勤の推奨もこのプロジェクトによるものです。

FUN + WALK PROJECT

スポーツ庁ＨＰ

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

スポーツは達成感や充実感をもたらすほか、健康の維持･増進にもつながります。このため、高齢者が社会の中で元気に活躍し、生きがいを得ていくためにスポーツは非常に有効なものといえます。

高齢者を対象とした大会への選手派遣や老人福祉センターにおける健康増進の場の提供などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実させます。

具体的な取組

○全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣 継　続

スポーツや文化等の交流大会、健康･福祉に関する各種イベントなどが開催される高齢者の総合的な祭典に選手を派遣し、高齢者の健康の保持･増進、社会参加の促進、生きがいの高揚を図ります。

○老人福祉センターにおける健康増進の場の提供 継　続

地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供します。

○老人クラブへの活動支援 継　続

健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている単位老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う札幌市老人クラブ連合会の活動を支援します。

施策②　スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心･安全なスポーツ施設の提供

札幌市のスポーツ施設には老朽化が進んでいるものが多く、今後の整備に当たっては、ますます安心･安全な施設環境が求められます。

限られた財源の中で、将来にわたり、市民がスポーツに触れ、楽しむことが可能なスポーツ環境の提供を目指します。また、時代のニーズに合わせて、新たなスポーツへの対応についても検討していきます。

具体的な取組

○新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館 新　規

市民のスポーツ活動を支える中核スポーツ施設として、プロスポーツや大規模大会、多様化する市民ニーズに対応が可能な新しい中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)を開館します。

○スポーツ施設の計画的な保全、改修 継　続

市民が安全、安心にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、老朽化したテニスコートや野球場の改修、大型備品の更新を進めます。

○将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討 継　続

スポーツ施設の配置･活用計画を策定するとともに、老朽化が進むスポーツ施設の今後の整備方針や、多様化する市民ニーズも踏まえた必要な機能等について検討を進めます。

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

スポーツをしない人やあまりしていない人がスポーツに取り組むためには、きっかけがとても重要です。

そのため、市民がスポーツを始めるためのきっかけづくりや、気軽に体験できる機会を提供するとともに、スポーツへの関心を高めるための情報発信を図ります。

具体的な取組

○学校開放の実施 継　続

身近で手軽に利用できるスポーツ活動の場として、小中学校の体育施設を市民へ開放します。

○スポーツ施設供用時間の延長の検討 レベルアップ

市民やスポーツ団体のニーズを踏まえ、必要に応じてスポーツ施設の供用時間の延長の検討を行います。

○新たなパークゴルフ場の整備 継　続

厚別区の山本処理場の埋立地に造成中の厚別山本公園に、市民が気軽に楽しむことができるパークゴルフ場を整備します。

○ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及 新　規

ラグビーワールドカップ2019™開催を契機にラグビー競技の裾野拡大、競技人口の増加を図ります。

○スポーツ関連情報の効果的な提供 継　続

市民のスポーツへの関心を高めるため、公式ホームページや広報紙など、様々な広報媒体を有効に活用しながら、スポーツやイベントに関する情報を効果的に提供します。

○さっぽろ市民カレッジの実施 継　続

札幌市生涯学習センターを拠点として、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽に楽しくスポーツを体験できる講座を提供します。

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

今後、社会保障関連経費の増大が予想される中、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。そこで、多様化するスポーツ施設に対する市民ニーズに対応するため、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備手法について研究します。

施策③　ウインタースポーツを振興します

（1）ウインタースポーツの裾野拡大に向けた取組

冬季は雪に包まれる札幌市では、ウインタースポーツは独特のスポーツ文化といえます。近年はスキー、スケートだけではなく新たなウインタースポーツも注目されており、これらも含むウインタースポーツへの参加のきっかけをつくるとともに、市民のウインタースポーツへの関心を高め、ウインタースポーツの裾野拡大を図ります。

具体的な取組

○ウインタースポーツ塾の開催　レベルアップ

小学生を対象として、様々なウインタースポーツが体験できる機会を創出し、競技人口の裾野拡大を図ります。

○ウインタースポーツ少年団の活性化　レベルアップ

冬季競技においてトップアスリートを生み出す土台となるウインタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験会の開催や広報などについて支援します。

○カーリング競技の普及　レベルアップ

札幌市カーリング場（どうぎんカーリングスタジアム）で、子ども向け指導プログラムやレベル別講習会などを実施し、競技の裾野拡大や競技力の向上を図ります。

○ウインタースポーツインストラクターの派遣　レベルアップ

市立中学校･中等教育学校･高等学校･特別支援学校のスキー学習支援としてインストラクターを派遣します。また、市立小学校へ歩くスキー出前授業として指導者を派遣します。

ウインタースポーツ塾

ウインタースポーツの裾野拡大と競技力の向上を図るため、子どもを対象にウインタースポーツを幅広く体験できる機会を提供する「エントリーコース」と、高いレベルの技術指導を受ける機会を提供する「エキスパートコース」を開設しています。

今後は、さらに多くの子どもたちがウインタースポーツを体験できるよう、体験機会を増やすことを目指します。また、ウインタースポーツ少年団やクラブチームで継続的に競技に取り組む子どもたちを増やすほか、競技力の向上にも努めていきます。

〈体験競技〉
スノーボード、リュージュ、スキージャンプ、クロスカントリースキー、フィギュアスケート、カーリング

(2) ウインタースポーツの経済的負担の軽減

ウインタースポーツを行う上で課題の一つとなるのが経済的な負担が大きいことです。市民ワークショップにおいても、「費用の負担がウインタースポーツの実施の妨げになっている。」という意見がありました。

市民がウインタースポーツを行う上で妨げとなる、用具購入や施設利用料などの経済的な負担の軽減を図り、ウインタースポーツを体験できる機会を増やします。

具体的な取組

○ウインタースポーツ実施時の利用料金等の助成 継　続

市内すべての小学３年生を対象にスキーリフト料金を助成します。また、市内すべての小学生を対象にスケート場の貸靴料金を夏と冬の年２回助成します。

○児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供 継　続

市民から不要となったスキー用具の提供を受け、これを希望する児童･生徒に提供します。

○さっぽろアスリートサポート事業 継　続

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

(3) ウインタースポーツ競技大会の情報発信

ウインタースポーツ都市※17として、「する」ウインタースポーツだけではなく、「みる」ウインタースポーツの定着も重要な視点の一つといえます。このため、多くの市民にウインタースポーツ競技大会の情報を発信し、ウインタースポーツのファンを増やすことを目指します。

具体的な取組

○ウインタースポーツシーズンにおける大会情報の発信 継　続

○ウインタースポーツ競技大会の開催支援 レベルアップ

※17 【ウインタースポーツ都市】…ウインタースポーツの拠点としての環境･ライフスタイルが充実した都市

方針２　スポーツを通じた健康増進

スポーツは体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすものです。また、スポーツを日常生活に位置付けることで、スポーツの力により人生を楽しく健康で生き生きとしたものにすることができます。スポーツを継続的に適度に行うことで、体力の向上や、健康の増進が期待できます。

超高齢社会※12を迎える中、市民のスポーツ･運動の必要性に対する意識を高め、日常生活から運動習慣を身につけることで、生活習慣病の予防･改善や介護予防を通じて健康寿命※1を延ばすことを目指します。

このため、市民の自主的な運動を引き続き支援していくとともに、企業や関係機関とも連携しながら、市民が日常生活の中で健康行動を継続的に実施できるような有効な取組について検討していきます。

施策④ スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

（1）市民の自主的な健康づくりの推進

市民が自ら健康づくりを行えるように、地域の健康づくり活動を支援します。また、運動習慣の定着を目指し、幅広い年齢層が取り組めるウオーキングを推進します。

具体的な取組

○地域における健康づくり活動の支援　継　続

市民が自ら健康づくりを行えるよう、地域へ「健康づくりサポーター」を派遣して、ウオーキング、体操、栄養のことなど健康づくりに関する助言や指導を行います。

○ビジネスパーソン※13･女性の健康づくりの推進　新　規

スポーツ実施率の低いビジネスパーソン※13や、健康課題を抱えることの多い女性を対象として、健康診査の受診率向上に向けた啓発を行うとともに、日常生活の中で体を動かす等の健康行動を実施するための仕組みづくりを行います。

○公園などの散策できる場の提供　継　続

公園や自然歩道、市民の森などを活用して気軽に散策できる環境を維持していきます。

(2) 健康づくりセンターの活用

市民の自主的な健康づくり活動の場である健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

また、生活習慣病の重症化予防対象者を始めとした、特に支援が必要な方に対しては、医療機関等と連携し利用促進を図るとともに、長期未利用者に対して勧奨を行っていきます。

※１　【健康寿命】…健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている
※12　【超高齢社会】…総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ
※13　【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

【健康づくりセンターについて】
　各センターには運動指導室やストレッチルームなどを備えており、市民の健康状態に応じた運動教室も実施しています。
●中央健康づくりセンター　●東健康づくりセンター　●西健康づくりセンター

具体的な取組

○健康度測定の推進　継　続
　健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成します。

○有資格者による運動指導の推進　継　続
　市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行います。

施策⑤ 冬季における運動習慣を推進します

（1）気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

　体力的な問題や時間的余裕がないことなどが、ウインタースポーツを行う上での妨げとなっていることから、歩くスキーなど、負荷が比較的小さく、冬季に気軽に行うことのできるスポーツを幅広い年代に普及することを目指します。

具体的な取組

○歩くスキーの普及振興　継　続
　中島公園に歩くスキーコースを開設し、用具の無料貸出を実施するとともに、白旗山競技場の歩くスキー常設コースも無料開放を実施します。

○大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援　継　続
　雪まつりの残雪を有効活用し、誰もが手軽にウインタースポーツに触れる機会を提供します。

○カーリング競技の体験機会の提供　継　続
　札幌市カーリング場（どうぎんカーリングスタジアム）で、体験教室や団体向けのレクリエーションの開催など、気軽にカーリングを体験できる機会を提供します。

(2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

冬や雪の価値を再認識し、市民が雪に親しみ、楽しみながら、札幌市らしい健康づくりができるよう支援します。

具体的な取組

○冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供 継　続

冬季の屋外スポーツ施設やスポーツイベントを活用して、スノーラフティングやチューブすべりなど雪遊びの機会を提供します。

○冬季における公園(スキー山)の活用促進 継　続

市民が身近に雪に親しむことができる場として、一定以上の規模を有し、安全確保が可能な公園においては、スキーやそり遊び等が可能な整備に努めます。

○雪かき汗かきチャレンジ 継　続

自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるようにするとともに、冬季における運動習慣の定着を図ります。

方針3　様々な形・場でのスポーツ参加を促進

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがあります。

また、スポーツは、それをきっかけに多くの出会いを生み出し、そこから人と人とのつながりが生まれます。つながりは参加者同士の交流のみならず、そこに関わる指導者やスタッフ、地域におけるコミュニティの醸成にもつながります。

スポーツを「みる」ことで、極限を追求するアスリートの姿に感動し、スポーツへの憧れを抱きスポーツへの関心が高まります。また、家族や友人が一生懸命応援することは、スポーツを「する」人の力になり、スポーツを「ささえる」ことは、多くの人が交わり共感しあい絆が強くなっていきます。

スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」といった関わり方を通して、様々な人と人のつながりをもたらし、スポーツに参加する人の増加を図ります。

施策⑥ 地域での取組を支援し地域コミュニティの醸成につなげます

（1）地域におけるスポーツ活動の支援

スポーツへの参加を促す上で、身近にそのような機会があることは重要な要素です。このことから、市民が、身近な地域で、主体的にスポーツに親しむことができる機会を確保するとともに、将来にわたって地域住民の多様なニーズに応え、より効果的な活動が展開できるように、地域スポーツクラブ※22の活動を支援します。

具体的な取組

○地域スポーツクラブ※22の活動支援　継　続

体育振興会※16など地域スポーツクラブ※22としての役割を担う団体に対して、札幌市が講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力を行うとともに、地域におけるスポーツイベントが活発に行なわれるよう、必要に応じて助言・指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

○地域スポーツ指導者の中学校への派遣（再掲）　レベルアップ

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

○地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援　継　続

地域住民が主体となり実施するスポーツ振興事業に対して助成を行うことで、地域の絆づくりを側面支援します。

※16　【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織
※22　【地域スポーツクラブ】…住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体

(2) 区の特色やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

札幌市ではこれまでも区の特色をいかした様々な取組を行ってきており、スポーツイベントもその一つです。

人と人がつながるきっかけとして、各区において、地域住民が気軽に参加できるスポーツイベントを実施または支援し、地域コミュニティの形成を促進します。

具体的な取組

○区の特色をいかしたスポーツ振興事業の実施 継　続

各区それぞれの特色やスポーツ施設を活用して様々な取組を実施します。

各区における取組の例

中央区：大倉山ジャンプ競技場を活用したウインタースポーツ体験イベントの開催など
北　区：麻生球場を活用したスノーホッケー大会の開催など
東　区：スポーツ交流施設（つどーむ）を活用したスポーツイベントの開催など
白石区：サイクリングロード（白石こころーど）を活用したマラソン大会の開催など
厚別区：野幌森林公園の自然をいかしたウオーキングイベントの開催など
豊平区：札幌ドームを会場にした大型スポーツイベント「スポーツバイキング」の開催など
清田区：白旗山の自然をいかしたスポーツイベントの開催など
南　区：南区の豊かな自然をいかしたウオーキング大会の開催など
西　区：農試公園を活用した雪合戦大会の開催など
手稲区：手稲山を活用したウオーキングイベントの開催など

施策⑦ スポーツを支える人材を育成し活動を促進します

(1) スポーツボランティア※9の育成と推進

「ささえる」スポーツとして最も代表的なものはボランティアです。近年、各種イベントでのボランティアの活躍はめざましく、必要不可欠な存在となっています。そこで、スポーツボランティア※9「スマイル・サポーターズ※21」を組織し、スポーツを通じたおもてなし体制の充実と市民の多様な活動の機会の創出を図ります。

具体的な取組

○スポーツボランティア※9の活動及び研修機会の提供 継　続

※9　【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す
※21　【スマイル・サポーターズ】…冬季アジア札幌大会におけるスポーツボランティアの名称。現在も札幌マラソンや北海道マラソンなどのスポーツイベントにおいてボランティア活動を行っている

(2) スポーツ推進委員※15の活動促進

スポーツ推進委員※15は地域を代表してスポーツを「ささえる」重要な役割を担っています。研修や協議会への参加により、スポーツ推進委員※15のスキルアップを図るとともに、スポーツ大会やイベントにおいて積極的に活用することで活動の促進を図ります。

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

近年、スポーツ指導者による暴力行為やアスリート等による違法薬物の摂取などが取り沙汰され大きな問題となっています。

このような事態を防止するためにも、競技団体等と連携しながら、スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等の根絶を目指し、「スポーツ・インテグリティ※28」の啓発に努めます。

施策⑧ トップスポーツやアスリートと連携を図ります

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

身近な地域で、特に若い世代がスポーツにふれるきっかけとなるよう、運動部活動・少年団や地域へオリンピック経験者等のアスリートを派遣したり、大学と連携を図ることで、体験会や講習会を実施したりするなど、スポーツ機会の提供と充実を図ります。

具体的な取組

○アスリートの活用 レベルアップ

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団にアスリートを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

○ウインタースポーツインストラクターの派遣(再掲) レベルアップ

市立中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習支援としてインストラクターを派遣します。また、市立小学校への歩くスキー出前授業として指導者を派遣します。

○大学のスポーツ資源をいかした連携 新　規

札幌圏の大学と連携して大学が持つスポーツ資源を活用することで、地域のスポーツ活動の活性化や、子ども達のスポーツ振興の促進を図ります。

(2) アスリートの育成支援

地元出身のアスリート輩出は、地元の誇りにもなり、市民がスポーツに取り組もうとする動機にもつながります。

次世代のトップアスリートを育成するため、大会・強化合宿等の参加経費の個人負担分の補助や、支援企業との橋渡しを行うことで、札幌から世界に羽ばたく選手の育成を支援します。

また、一線を退いた札幌市出身のトップアスリートのセカンドキャリアを活用し、次世代のトップアスリートの発掘・育成を行うなど、アスリートの発掘からセカンドキャリアの活用までの好循環を生み出します。

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取組んでいる

※28 【スポーツ・インテグリティ】…ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念

具体的な取組

○スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘 新　規

子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりや、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートを育成するために、様々な種目のオリンピアンやパラリンピアンを始めとした元トップアスリートのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

○さっぽろアスリートサポート事業(再掲) 継　続

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

○スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討 新　規

支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行います。

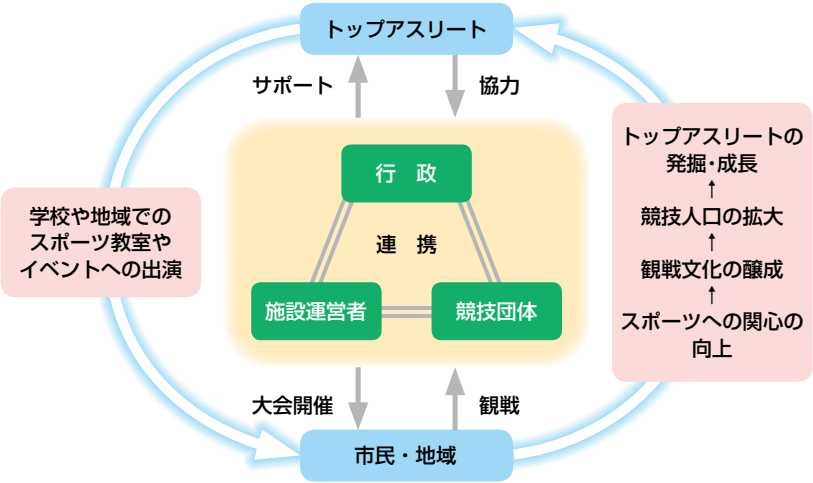
トップアスリートと地域におけるスポーツ活動の好循環

市民がオリンピアンなどのトップアスリートと身近に触れあう機会は、スポーツへの関心を高めるきっかけとなり、観戦文化の醸成や競技人口の拡大につながっていきます。

このため、これまでの学校や地域との連携に加えて、施設運営者や競技団体との連携を強化していくことも重要です。今後は、スポーツ施設でトップアスリートのセカンドキャリアなどを活用しながら、例えば、スポーツ少年団における選手育成や競技力向上を図ることで、次世代のアスリートの育成へとつながる好循環を目指します。

アスリートのセカンドキャリアを活用した選手育成等

学校や地域へのアスリート派遣（セカンドキャリアの活用等）



(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興

スポーツの裾野を広げ、競技人口の拡大や観戦文化の定着を図るために、市民がトップスポーツを見ることを積極的に推進するとともに、市民がトップスポーツチームとふれあう機会を増やします。

また、トップスポーツチームと連携して、その持つスポーツ資源や蓄積された運営ノウハウなどをいかして、スポーツの振興を目指します。

具体的な取組

○プロスポネットSAPPOROによる取組 レベルアップ

「プロスポネットSAPPORO」と連携・協力して、観戦機会の充実による「みる」文化の醸成を図るとともに、地域やアマチュアスポーツ団体への指導などを行います。

○北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放 継　続

ファイターズが屋内練習場を利用しない日時を活用し、市内小中学生チームへの開放を図ります。

○北海道コンサドーレ札幌との連携によるウインタースポーツの普及振興 新　規

コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウインタースポーツの普及振興やアスリートの育成を目指します。

プロスポネットSAPPORO
「スポーツの力でまちを元気に！ プロスポーツのあるまちSAPPORO」

札幌市に本拠地を置く３つのプロスポーツチーム（北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道）と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めていくため、平成25年（2013年）３月に「プロスポネットＳＡＰＰＯＲＯ」を設立しました。

平成30年度よりエスポラーダ北海道が加わり、４つのプロスポーツチームと札幌市が持つ力を結集し、より高いレベルで目標の実現を目指します。

©HOKKAIDO NIPPON-HAM FIGHTERS　©CONSADOLE　©LEVANGA HOKKAIDO　©ESPOLADA

協力内容

- スポーツの裾野の拡大、観る文化の醸成
- スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- シティプロモート※7 やスポーツツーリズム※8 の推進

※7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてＭＩＣＥ推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

目標２　スポーツの力で「さっぽろ」を かえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

方針4　スポーツを通じた共生社会※3の実現

年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、スポーツは誰もが参加できるものであり、全ての人々が関心や適性等に応じて、安全で公正な環境の下で日常的･自発的にスポーツに参加する機会を確保することが重要です。

また近年、人種差別やヘイトスピーチなどが社会問題になっていることから、子どもの頃から、スポーツを通じて他者への敬意や多様性を尊重できる心を育んでいくことも必要です。

子ども、高齢者、障がいのある方、女性、外国人などを含め、全ての人々が分け隔てなくスポーツに親しむことで、心のバリアフリー※5や共生社会※3の実現へとつながります。

市民ワークショップにおいても、「障がいの有無に関わらず、一緒にスポーツができる環境整備が重要である。」という意見がありました。

多様な人々がスポーツを通じて社会に参加することができるよう、スポーツを楽しむ環境を充実させるとともに、そのための活動を支援します。

施策⑨ 障がい者スポーツを振興します

（1）障がい者スポーツの普及･振興の促進

障がいのある方の生きがい、生活の質の向上や運動機能の維持、回復のためには、スポーツは有効な手段であり、障がいのある方の自立に役立つとともに、他の方との相互理解を生み出します。

このことから、障がい者スポーツの活動場所の拡充や体験用競技用具の配置、指導者の育成などを通じて、障がいのある方がスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。

具体的な取組

- ○区体育館における障がいのある方の利用促進　新　規
- ○障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催　新　規
- ○障がい者スポーツ普及促進協議会の設置　新　規

※３　【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である
※５　【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけではなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がいを無くすこと

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

障がい者スポーツ振興のためには、その核となる場の整備も重要です。

市立札幌みなみの杜高等支援学校を拠点とした障がい者スポーツクラブの開設を検討し、障がいのある方が継続的にスポーツに親しめる環境をつくります。

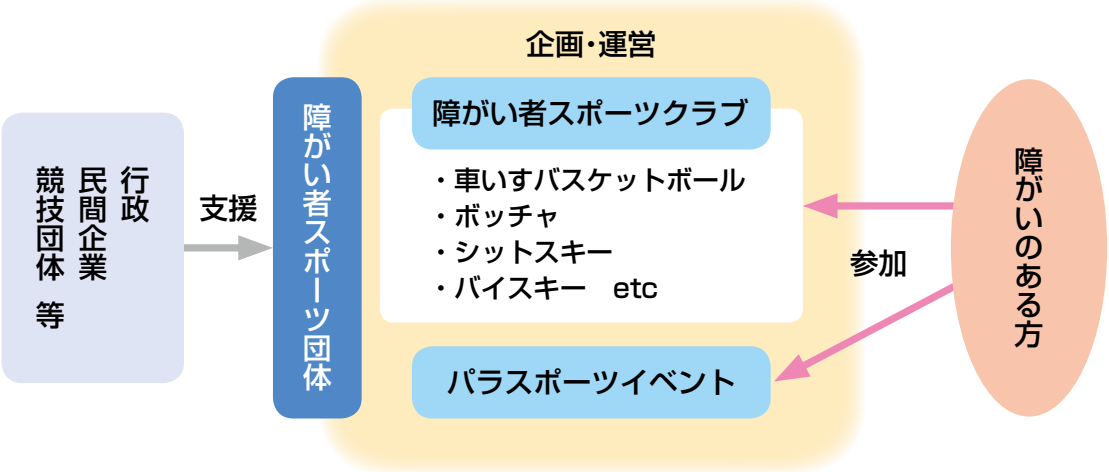
障がい者スポーツクラブ

障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、平成29年9月より、市立札幌みなみの杜高等支援学校(札幌市南区真駒内上町4丁目)の体育館において、障がい者スポーツ専用の学校開放を開始しました。

開設初年度の利用率は42.5%でしたが、平成30年度は65.8%(平成30年12月現在)となっています。

今後は学校開放を継続しながら、この市立札幌みなみの杜高等支援学校を拠点に、障がい者スポーツの裾野拡大、競技力向上を図る「障がい者スポーツクラブ」の開設に向けて検討を行っていきます。

〈障がい者スポーツクラブの将来イメージ〉



(3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

障がい者アスリートがチャレンジする機会を提供するため、札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック)等のスポーツ大会の開催費用や、市外で開催される大会への選手の派遣費用等の一部を助成し、障がいのある方のスポーツ大会への積極的な参加を促します。

また、大会の周知を図ることで、障がいのある方のスポーツ大会への参加を促進します。

(4) スポーツ施設のアクセシビリティ※29 向上

施設の改修に併せて、スロープや手すり、オストメイト対応トイレの設置等、ハード面のバリアフリー※5対策を行うとともに、点字やサイン等の情報のバリアフリー※5対策を実施し、障がいのある方や高齢者においても施設を利用しやすくします。

具体的な取組

○スポーツ施設の計画的な保全、改修 継　続

障がいのある方や高齢者にとっても、安全にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、老朽化した大型備品の更新を進めます。

○障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営 継　続

障がいのある方は、その種別によって求められる対応が全く異なる場合があることから、例えば、コミュニケーションボード※30を活用するなど、それらの特性を理解し、それぞれに適した対応に努めます。

○スポーツ施設におけるバリアフリー※5マップ導入の検討 新　規

障がいのある方がスポーツ施設を利用するときに有効となるバリアフリー※5マップの導入にむけて検討を進めます。

○スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ※29 向上 継　続

年齢や障がいの有無を問わず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページとなるよう努めます。

※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけではなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がいを無くすこと
※29 【アクセシビリティ】…年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること
※30 【コミュニケーションボード】…指差しなどにより意思疎通をするため、絵・図や簡易な日本語を記載したボード。知的障がいのある方などとのコミュニケーションを図るため利用される

施策⑩ スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

（1）姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

スポーツは言葉を超えた交流を生み出すことができます。このことから、札幌市の姉妹都市とのスポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱くきっかけを生み出します。

具体的な取組

○国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業 継　続

姉妹都市へ中学生選手団を派遣し、交流試合や合同練習を実施することで交流を深めるとともに、姉妹都市の文化や歴史を学び国際感覚を育みます。

○札幌マラソン大会姉妹都市交流事業 継　続

姉妹都市提携記念年に該当する都市から、選手団を札幌マラソン大会等に招待することで、相互理解、友好親善を深めます。

（2）スポーツを通じた国際交流の推進

札幌市の国際交流の拠点施設である札幌国際交流館の活用や、国際的なスポーツ大会の開催をきっかけとして、市民と外国人のスポーツを通じた交流を促し相互理解と親善を深めます。

具体的な取組

○国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進 継　続

「市民と外国人がスポーツ、文化活動等を通じて相互理解及び親善を深めることにより国際交流を推進し、もって札幌市の国際化に資する」という施設の設置目的の達成に向けて各種交流事業を実施します。

○国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援 継　続

スポーツを通じた国際交流を目的として、国外で開催される国際スポーツ大会へ参加する団体及び個人に対して助成金を交付します。

○ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機とした国際交流 新　規

ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機として、参加国等の選手とふれあうことで国際交流を促進するとともに、ラグビーの普及･振興を図ります。

○札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流 継　続

大会開催に先立ち、国内選手と海外選手との交流機会として、選手交歓会を開催します。

方針5　スポーツを通じた経済・地域活性化

スポーツは多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツです。人口減少や高齢化が進む中、スポーツ資源を地域の魅力づくりやまちづくりにいかしたり、ウインタースポーツを核とした札幌らしい産業の創出を目指したりすることで、地域や経済の活性化に貢献します。

札幌市の資源である、大倉山ジャンプ競技場やオリンピックミュージアム、札幌ドームといったスポーツ施設や、札幌マラソン等のスポーツイベントの運営を充実させることで、「さっぽろ」の魅力を向上させて集客力を増やします。

また、スポーツツーリズム※8を推進するとともに、持続性のあるスポーツイベントや大会・合宿の誘致等を行うことで交流人口※11の拡大を目指します。

施策⑪ 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズム※8の推進、交流人口※11の拡大に努めます

（1）さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

札幌市は昭和47年（1972年）の冬季オリンピック開催以来、知名度を上げ、スポーツ環境が整備されてきています。

国内外に向けて、北海道・札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境、特に北海道の特徴であるウインタースポーツ環境をPRし、スポーツを目的とした観光客の誘客を図ります。

具体的な取組

○スポーツツーリズム※8の推進　レベルアップ

○海外代表合宿の誘致　継　続

※8　【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてＭＩＣＥ推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

※11　【交流人口】…観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口（その地域に住んでいる人口、居住人口）に対する概念

スポーツツーリズムの推進

スポーツツーリズムの中でも、雪や広大な自然をいかしたウインタースポーツは、札幌市における観光閑散期において、特に大きな魅力になるスポーツといえます。

また、2018年平昌、2022年北京とアジアでの冬季オリンピック･パラリンピックが続き、今後更に、中国を中心としたアジア圏におけるウインタースポーツ人口は急増していくことが見込まれています。

これらを好機と捉え、中国を中心としたアジア圏を対象にするほか、長期滞在型で消費単価の高い欧州･豪州も新たにターゲットに加え、さっぽろグローバルスポーツコミッションとともに、道内スキー場や旅行関連企業等との連携を強化しながら、国内外におけるスポーツ関連の博覧会への出展や、旅行会社やメディアなどの招請を行うなど、良質な雪質はもとより、ウインタースポーツ環境の優位性など、札幌を含め北海道全体が一大スノーリゾートエリアであることを積極的に海外に向けて発信し、交流人口の拡大を図っていきます。

(2) 市民スポーツ大会の開催支援

スポーツ都市としての知名度のさらなる向上を図るとともに、スポーツを「する」目的で、札幌市を訪れる人々を増やすため、さっぽろ健康スポーツ財団等の関係団体との連携により、多くの市民が参加する市民体育大会や札幌マラソンなどの大型市民スポーツイベントを開催し、スポーツ振興とともに交流人口※11の拡大、賑わいの創出を図ります。

＜主なスポーツ大会＞

・市民体育大会	参加者数	27,109人（平成29年度実績）
・札幌マラソン	参加者数	13,178人（平成29年度実績）
・北海道マラソン	参加者数	18,926人（平成29年度実績）
・札幌国際スキーマラソン大会	参加者数	1,742人（平成29年度実績）
・北海道を歩こう	参加者数	1,453人（平成29年度実績）

※11 【交流人口】…観光者などの一時的･短期滞在からなる人口。定住人口（その地域に住んでいる人口、居住人口）に対する概念

施策⑫ 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をいかした観光資源※24の活性化検討

札幌市は民間の調査による「全国市町村魅力度ランキング」で常に上位に位置するなど、魅力的な都市として国内で高く評価されており、観光に関して恵まれた状況にあるといえます。

今後はこれまでに定着した特定の観光イメージにとどまらず、大倉山ジャンプ競技場や札幌ドームといったスポーツ施設や、スキー場など郊外型観光資源※24を活性化させることで、年間を通じて誘客を図ることができる取組について検討を進めます。

具体的な取組

○大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ レベルアップ

ウインタースポーツの拠点として、大倉山ジャンプ競技場及び札幌オリンピックミュージアムの魅力向上について検討を行い、市民、観光客がともにオリンピックの歴史や価値にふれられる機会を創出するとともに、オリンピズムを発信します。

○札幌ドームの活用促進の検討 新　規

全天候型多目的施設としての機能を生かし、新たなイベントの誘致に向けた検討や、多彩なイベントに対応するための機能の拡充等について検討します。

○スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出 新　規

国内外の観光客が、スキー場などの郊外型観光資源※24において、冬のアクティビティとして気軽にウインタースポーツに親しむことができるよう、スキーなどの体験機会を創出します。

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

札幌市に本拠地を置くプロスポーツチームとスポーツを通じたまちづくりを推進するために設立した「プロスポネットSAPPORO」などを活用し、札幌の魅力をPRすることにより、プロスポーツチームの試合観戦を絡めた観光客の誘客を図ります。

【プロスポネットSAPPORO構成団体】
北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道、エスポラーダ北海道

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究(再掲)

今後、社会保障関連経費の増大が予想される中、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。そこで、多様化するスポーツ施設に対する市民ニーズに対応するため、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備手法について研究します。

※24 【観光資源】…観光やレジャーといった余暇を楽しむ需要に応じられる要素のこと

目標３　スポーツの力で「世界」へつながる

世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック･パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

方針6　「さっぽろ」の魅力を世界に発信

これまでも、札幌では多くの国際大会やスポーツイベントを開催しており、そのことで蓄積された大会運営のノウハウや豊かなスポーツ資源は、札幌の一つの魅力になっています。

今後国内では、ラグビーワールドカップ2019™や2020年東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模スポーツイベントが開催されます。これに伴い、札幌の競技会場にも国外から多くの方の来場が見込まれています。大会の成功に向けて関係団体との連携を図っていくとともに、これらの開催を好機と捉えて、更なるシティプロモート[※7]の展開、そして大会開催によるレガシー[※6]を活用し、札幌の魅力を一層高めていくことを目指します。

スポーツを通じて「さっぽろ」の魅力を世界に広く発信し、冬季オリンピック･パラリンピック招致の実現に向けた機運の醸成にもつなげていきます。

施策⑬ 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(1) ラグビーワールドカップ2019™の開催

世界３大スポーツイベントの一つといわれるラグビーワールドカップの札幌開催に向けた準備を進めるとともに、機運醸成の取組、シティプロモート[※7]や来札者へのおもてなし等、大会実施効果を高めるための取組を行います。

(2) 東京2020オリンピック･サッカー競技の開催

オリンピック･サッカー競技の札幌開催に向けた準備を進めるとともに、機運醸成の取組、シティプロモート[※7]や来札者へのおもてなし等、大会実施効果を高めるための取組を行います。

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

大規模な国際スポーツ総合会議や冬季の国際競技連盟関連会議などを誘致し、スポーツにおける札幌の存在感を高めるとともに、スポーツMICE[※31]により札幌のインバウンド[※23]拡大を目指します。

※６　【レガシー】…オリンピック･パラリンピック開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果
※７　【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動
※23　【インバウンド】…外国人観光客が日本に旅行しに来ること
※31　【MICE】…多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting（会議･セミナー）、IncentiveTravel(Tour)（企業報奨･研修旅行）、Convention（大会･学会･国際会議）、Exhibition（イベント、展示会、見本市）の頭文字をとったもの

(4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組(再掲)

札幌市は昭和47年(1972年)の冬季オリンピック開催以来、知名度を上げ、スポーツ環境が整備されてきています。

国内外に向けて、北海道･札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境、特に北海道の特徴であるウインタースポーツ環境をPRし、スポーツを目的とした観光客の誘客を図ります。

具体的な取組

○スポーツツーリズム※8の推進　レベルアップ

○海外代表合宿の誘致　継　続

※8　【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてＭＩＣＥ推進の要となる国際競技大会の招致･開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

方針7　世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

札幌は昭和47年（1972年）冬季オリンピックを契機として、様々な都市基盤※4の整備が進みました。

再びオリンピックを開催することに加え、初めてのパラリンピックの開催を通じて、1972年前後に整備された都市基盤※4の更新や、先駆的なまちづくりモデルの提案を行うことで、全ての人にやさしい冬の豊かなライフスタイル※25を創出することができると考えます。

冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致などを通じて、アジアそして世界におけるウインタースポーツの拠点都市としてのブランドを高めるとともに、札幌の魅力を世界に向けて発信します。

施策⑭ オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

（1）市民の招致機運の醸成に向けた取組

冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向け、国や北海道、関係市町村や札幌招致期成会等の経済団体、そして競技団体などと引き続き連携を図ります。また、札幌で開催する意義やオリンピック・パラリンピックの魅力を伝えていくとともに、アスリートの持つ発信力を活用するなど、招致活動そのものの露出を高め、市民を巻き込んだ機運のうねりをつくっていくことで、もう一度オリンピックを、そして初めてのパラリンピックを札幌で見てみたいという期待感を高めます。

具体的な取組

- ○冬季オリンピック・パラリンピック招致活動　継　続
- ○冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進　継　続
- ○1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討　新　規

（2）オリンピック・パラリンピック教育※32の推進

1972年の冬季オリンピックを開催した札幌の歴史と共に、文化・国籍・障がいの有無など様々な違いを超え、友情・連帯感・フェアプレーの精神をもって理解し合うことの大切さを学ぶことを通して、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ意欲の向上や札幌を愛する心情を育成するオリンピック・パラリンピック教育※32を推進します。

※4　【都市基盤】…鉄道・道路・上下水道・公園・緑地・学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物
※25　【ライフスタイル】…生活様式、営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方
※32　【オリンピック・パラリンピック教育】…オリンピック・パラリンピックを題材にして、①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、②障がい者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的参画の定着・拡大、③児童生徒を始めとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することを目的とした教育

具体的な取組

○オリンピアン、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育　継　続

○札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進　レベルアップ

○大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ（再掲）　レベルアップ

ウインタースポーツの拠点として、大倉山ジャンプ競技場及び札幌オリンピックミュージアムの魅力向上について検討を行い、市民、観光客がともにオリンピックの歴史や価値に触れられる機会を創出するとともに、オリンピズムの発信をします。

施策⑮ 札幌ブランド、シビックプライド※26を醸成します

（1）スポーツを核としたまちづくりの研究

オリンピック・パラリンピックを契機として老朽化した冬季の施設を更新することに加え、新たなレガシー※6の象徴空間として、すべての人がスポーツを身近に感じられるスポーツと集客機能が共存する施設を整備するなど、まちづくりの中核となるスポーツ施設等の在り方についての検討を行います。

具体的な取組

○スポーツと集客交流の拠点づくりの検討　新　規

スポーツを「する」「みる」「ささえる」様々な機能と、それらと相乗的に集客交流効果を高める機能を集積した拠点づくりについて、高次機能交流拠点への集約も念頭に検討を行います。

○将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討（再掲）　継　続

スポーツ施設の配置・活用計画を策定するとともに、老朽化が進むスポーツ施設の今後の整備方針や、多様化する市民ニーズも踏まえた必要な機能等について検討を進めます。

（2）冬季版ハイパフォーマンスセンター（ＨＰＣ）の誘致に向けた取組

冬季競技の練習環境の充実や、ジュニア世代から継続的に育成・強化を図る環境整備などを目的として、冬季版ハイパフォーマンスセンターの札幌市への建設を目指し誘致に向けた取組を進めます。

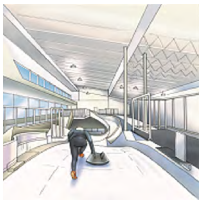
スポーツ科学・医学・情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、競技レベルの向上、ウインタースポーツ人口の拡大が期待でき、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。

※6　【レガシー】…オリンピック・パラリンピック開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果
※26　【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

冬季版ハイパフォーマンスセンター（イメージ）

①冬季競技アスリートの活動拠点

- 周辺の冬季競技施設との連携
- 様々な合宿に対応した宿泊施設の整備
- 様々なアスリート・指導者同士の交流



②競技レベルの向上

- シーズンを通した実践トレーニングの実施
- ハイレベルな科学的トレーニングの実施
- スポーツ科学・医学・情報などの先端的な研究

③ウインタースポーツ人口の拡大

- 見学会や体験会による裾野の拡大
- 次世代アスリートの育成・発掘

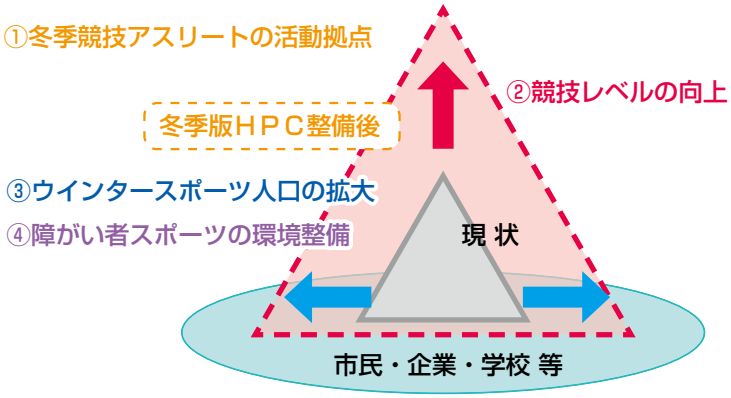
④障がい者スポーツ環境の整備

- 障がい者アスリートの活動拠点
- アクセシビリティの向上
- 障がい者スポーツの振興
- 心のバリアフリー化

味の素ナショナルトレーニングセンター

国立スポーツ科学センター

〈冬季版ＨＰＣに期待される効果〉



(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

アスリートは、不断の努力の積み重ねにより人間の可能性を追求しており、その活躍や努力は人々に希望を与え、チャレンジする勇気をもたらします。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や国際スポーツイベントの開催を好機として捉え、未来を担う世代の世界への飛躍を支援します。

具体的な取組

○スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘(再掲) 新　規

子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりや、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートを育成するために、様々な種目のオリンピアンやパラリンピアンを始めとした元トップアスリートのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

○アスリートの活用(再掲) レベルアップ

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団にアスリートを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

○さっぽろアスリートサポート事業(再掲) 継　続

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

○スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討(再掲) 新　規

支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行います。